

教育の質向上のための取り組み

2022 年度、西荻学園幼稚園では東京都の「私立幼稚園教育水準向上支援事業補助金」を用いて、教育の質向上のために以下の取り組みを行いました。

1. 保護者への情報発信のために、園内の Wifi 環境を整備し、各クラスにノートパソコンを購入した。

①実施実績

※個人情報保護の点から園児の写っている映像は保護者のみに配信し、アーカイブとして配信しない

・ 父母の会 Zoom 参加及び配信

父母の会を開催して幼稚園からのお知らせ、幼児の育ちや支援についての講演を園長が行った。新型コロナウイルス感染症の感染対策として会場開催と並行して Zoom による参加と、Youtube による限定配信を行った。

実施日：2 月 1 日

以下の西荻学園幼稚園の Youtube 配信 URL からアーカイブとして園長の話のみ閲覧可能。

<https://www.youtube.com/channel/UCJclLiqEU-0kG2R0suJauBw>

・ 講演会 Zoom 参加及び配信

新型コロナウイルス感染症の感染対策として会場開催と並行して Zoom による参加と、Youtube による限定配信を行った。

講演：柴田英俊（社団法人チャイルドヘルスケア協会代表）

実施日：3 月 1 日



- ・各教室のノートパソコンと Wifi 環境が整ったことで、行事の様子や保育の様子を Zoom を使用して各教室から配信した

実施日：1月27日（お店屋さんごっこ 各教室及び廊下）



2月18日（リズム参観 遊戯室）

3月16日（卒園式 礼拝堂）

②実施評価

- ・これまで遊戯室および礼拝堂および事務室のみに限定されていた Wifi 環境が園舎全体に整えられたことで、各教室からの配信、検索が容易にできるようになった。
- ・教室からの配信は「お店屋さんごっこ」のみであったが、これまで園児の作品のみを見ていただいた保護者に、実際にお店屋さんごっこの様子を見ていただき、活気あるお店屋さんの掛け声や、売り買いの様子などを見ていただくことで縦割り保育として行うお店屋さんごっこの様子と共に、縦割りによって得られる子どもたちの貴重な経験を感じ取っていただいた。
- ・父母の会が新型コロナウイルス感染症対策のため、会場開催ができない中で整えられた Wifi 環境によって安定的に配信を行って会場で参加できない保護者にも幼稚園からの報告の他、園長による保育や幼児の成長についての講話、また講演会を配信することで幼児教育への理解を深めることができた。

2. 各教室用のノートパソコンを購入して、配信だけでなく保育の様子を録画、撮影して保護者へ伝えると共に、教員の保育の振り返りのために活用した。

① 実施実績

- ・日常的に保育の様子を撮影し、教師がドキュメントを作成して保育の振り返りを行い、教師間、クラス間の情報の共有に役立てた。
- ・制作したドキュメントを園内に掲示して、保護者に日常の保育の様子や活動の目的を知ってもらうことに活用した。
- ・ドキュメントを教室に掲示することで、園児自身の成功体験の振り返りや次の課題への取り

組みを促すことに活用した。



- ・園児の興味関心を持ったものを調べる際に、画像検索などを活用した。
- ・出欠等の管理、預かり保育の管理等の教師の園務を軽減して、より保育活動の準備と振り返りに用いる時間を確保することができた。
- ・日常の保育の様子を撮影した写真を以下の幼稚園のinstagramアカウントで公開して保育の様子や目的を伝えることに活用した。

<https://www.instagram.com/nishiogi.g.y/?hl=ja>

② 実施評価

- ・保育の様子を保護者により迅速に伝えることで、日常の保育への理解と、幼児の成長の積み重ねについてより理解を得られた。
- ・園児一人一人の興味関心、課題について教師間の情報共有に有効であった。
- ・園児の興味関心について、時間をおくことなく素早く対応して、興味関心の深まりを促すことに有効であった。
- ・ドキュメントを掲示して振り返ることで、園児自身が自分の活動についてより集中するようになった。また、次の段階の活動に積極的に参加するようになった。
- ・ドキュメントによる振り返りから発想を得て、新しい遊びに発展する場面が見られた。

3. 食育としてミニトマトとオクラの栽培を行い、観察スケッチ等の活動を行った。

① 実施実績

- ・園児（年長）が話し合っってミニトマトとオクラの栽培を決めた。園児たち自ら花屋へ行って苗を受け取り、育て方や注意する点について教えていただいた。
- ・幼稚園の花壇の土を耕して、苗を植えた。
- ・毎日、当番の園児が水をやり、教師に教わりつつ脇芽を摘む等の世話をを行った。
- ・成長の様子を自由画長にスケッチした。枝の出方や葉の付き方、形をよく観察して描くように教師が指導した。

- ・熟した実を収穫し、家に持ち帰って家族とも収穫を喜ぶ体験をした。
- ・多くの実がなったので、年少、年中にも分けることで、収穫の喜びを共有した。

② 実施評価

- ・子どもたち自身で話し合っ育てる野菜を決めることで、嫌いな野菜であっても積極的に関わって育てることができた。
- ・スケッチを繰り返すことで観察力が育ち、実の付き方や熟していく過程で子どもたちが多くの発見をした。
- ・発見したことを他の園児や教師に伝えるために、自ら調べたり尋ねたりして伝えるための工夫をするようになった。
- ・伝えたり、発見したことについて話し合うことでコミュニケーション能力を深めることができた。
- ・他者と収穫を分け合うことで、収穫の喜びをより深く経験し、今度は別の野菜を育てたいという意欲が育った。
- ・年少、年中の園児も収穫を分けてもらうことで、自分たちも野菜や花といった植物に関心を持ち、自分たちも育てたいと意欲を持つことができた。
- ・トマトは多くの収穫を得たが、オクラは十分な収穫を得られなかった。このことを通して、何が原因でうまく育たなかったのかについて考え、自分たちで仮説を立て、改善する手段を考えたり、調べるとい自主的な学習の姿勢が見られた。
- ・野菜を育てることで、店頭に並ぶ野菜や農家の仕事について興味を持つことができた。



3. 一般社団法人発達臨床支援協会から心理士を派遣してもらい、年間を通して教員と保育への助言をもらった。

① 実施実績

- ・年間5回の心理士による訪問を実施した。
- ・訪問前に特に重点的に観察と助言をお願いしたい園児についてレポートを準備した。
- ・訪問時には一日各クラスを回って重点的な観察を要する園児だけでなく、都の園児と環境についても観察をしてもらった。
- ・保育後に、十分な時間を取って各クラス担任と心理士の面談の時間を持った。助言をいただき保育に活かすようにした。

- ・園内研修として上記の心理士による発達障害についての研修会を開催した。
- ・お子様の発達についての保護者の相談についても対応をしていただいた。

② 実施評価

- ・発達障害の専門家に定期的に幼稚園を訪問し、継続的な観察をしてもらうことで質の高い助言をいただけるようになった。
- ・発達障害について教職員の理解を深め、より質の高い保育と環境を整えることができた。
- ・次年度以降も継続していく。

4. 発達障害をテーマとした雑誌を年間通して購入した。

① 実施実績

- ・発達障害をテーマとした雑誌を年間通して購読した。

② 実施評価

- ・年間を通して継続的に雑誌から学ぶことで、教師の園児に対する気づきや支援、環境設定の質が向上した。
- ・発達障害のある園児がより安全に、快適な保育環境で過ごすことができるようになったことで、より成長を感じるようになった。